

2008年3月期決算 および 新中期経営計画説明会

2008年5月14日

Nabtesco Corporation

当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

- I. 2008年3月期連結業績概況
- II. 前中期経営計画のレビュー
- III. 新中期経営計画
“Global Challenge 2010”

- I. 2008年3月期連結業績概況
- II. 前中期経営計画のレビュー
- III. 新中期経営計画
“Global Challenge 2010”

損益概況 (前期比)



(単位:億円)	2007/3	2008/3	増減	率
売上高	1,614	1,742	128	7.9%
営業利益	164	194	30	18.3%
(営業利益率)	(10.2%)	(11.2%)	—	—
営業外損益	4	6	1	—
経常利益	168	200	31	18.9%
特別損益	-1	-16	-14	—
税引前利益	166	184	17	10.4%
当期純利益	97	110	12	12.7%
一株当たり 当期純利益	77.10円	86.77円	9.67円	

一株当たり 配当金	14円	16円	2円
--------------	-----	-----	----

増減要因

■ 売上高

新興国を中心とした建設機械需要の伸張、自動車業界の設備投資活発化による産業用ロボットの回復等により増収。

■ 営業利益

売上の増による	32億円
コストリダクション及び販売価格影響	11億円
原材料費の値上り	-3億円
販管費の増等	-10億円
計	30億円

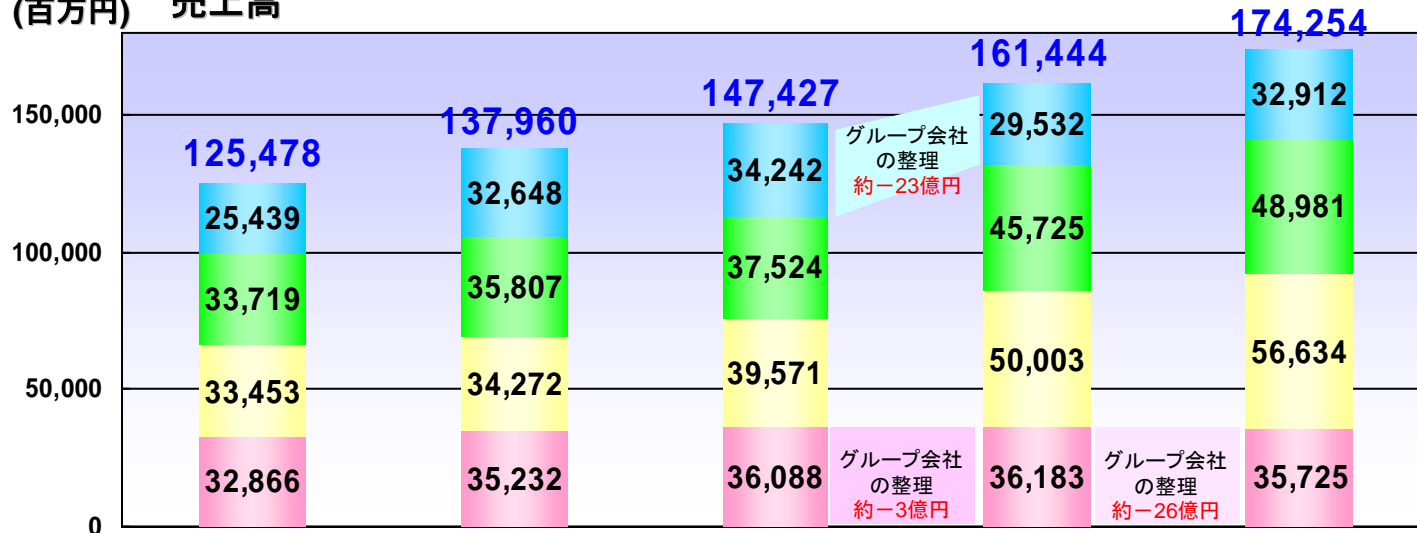
■ 特別損益

事業撤退損	-5億円
退職金制度の変更に伴う一時的損失	-5億円
グループ会社売却損・他	-4億円
計	-14億円

事業セグメント別 売上高・営業利益推移



(百万円) 売上高

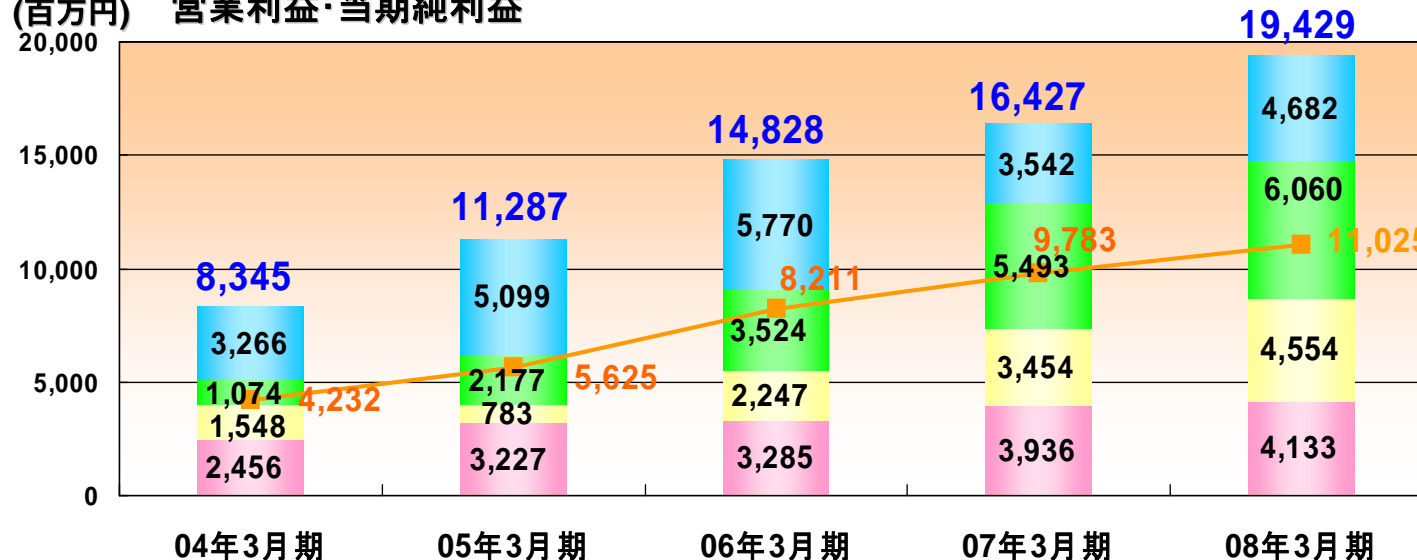


2008年3月期
予想値推移: 売上高

当初予想	165,000百万円
1Q時予想	165,000百万円
中間期予想	168,000百万円
3Q時予想	170,000百万円

- 精密機器
- 輸送用機器
- 航空・油圧機器
- 産業用機器

(百万円) 営業利益・当期純利益



予想値推移: 営業利益

当初予想	17,500百万円
1Q時予想	18,300百万円
中間期予想	18,800百万円
3Q時予想	19,200百万円

予想値推移: 当期純利益

当初予想	10,000百万円
1Q時予想	10,400百万円
中間期予想	11,000百万円
3Q時予想	11,000百万円

主要製品と顧客 (敬称略)

●精密減速機

ロボット: ファナック・安川電機・KUKA (独)・ABB (スウェーデン)

工作機械: ヤマザキマザック・オークマ・森精機製作所

半導体製造装置: 東京エレクトロン

(単位:百万円)	2007/3	2008/3	増減	率
売上高	29,532	32,912	3,380	11.4%
営業利益	3,542	4,682	1,140	32.2%
営業利益率	12.0%	14.2%		

- 自動車業界の設備投資が調整期を脱し、主力の産業用ロボット向け精密減速機が回復。
- 工作機械向けは引続き好調。
- 新工場立上げによる生産性向上等により、増益。
- 4Qのクレーム費用により利益圧迫。

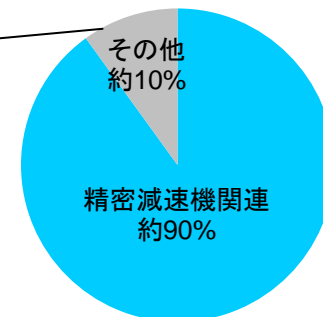
売上高

当初予想	31,000百万円
1Q時予想	31,000百万円
中間期予想	31,400百万円
3Q時予想	31,800百万円

営業利益

当初予想	4,300百万円
1Q時予想	4,800百万円
中間期予想	4,800百万円
3Q時予想	4,500百万円

真空機器
光造形装置等



売上高構成比

主要製品と顧客 (敬称略)

● 鉄道車両用機器 ブレーキシステム ドア開閉装置

JR各社・民鉄各社・川崎重工業・日本車輛製造・北京地下鉄

● 商用車用機器 エアブレーキ周辺機器

三菱ふそうトラック・バス・日野自動車・いすゞ自動車・日産ディーゼル工業

● 船用機器 ディーゼルエンジン遠隔制御装置

川崎重工業・三井造船・三菱重工業・MAN Diesel (デンマーク)

(単位:百万円)	2007/3	2008/3	増減	率
売上高	45,725	48,981	3,255	7.1%
営業利益	5,493	6,060	567	10.3%
営業利益率	12.0	12.4		

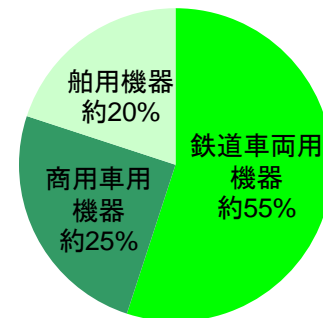
売上高

当初予想	46,000百万円
1Q時予想	46,000百万円
中間期予想	46,700百万円
3Q時予想	47,700百万円

営業利益

当初予想	5,600百万円
1Q時予想	5,600百万円
中間期予想	5,400百万円
3Q時予想	5,900百万円

- 鉄道車両用機器は中国大型プロジェクト向けの減を国内車両更新需要がカバーし増収。
- 商用車用ブレーキ装置は国内特需収束も、トラック輸出が増え、売上高前年並み。
- 船用機器は新造船の世界需要堅調、売上高増加。
- 船用機器の収益性改善等により増益。



売上高構成比

主要製品と顧客 (敬称略)

●油圧機器

走行モーター: コマツ・コベルコ建機・住友建機・ヤンマー建機

風力発電機用駆動装置: 三菱重工業・他

●航空機器 フライトコントロールアクチュエーションシステム

ボーイング・川崎重工業・三菱重工業・IHI・防衛省

(単位:百万円)	2007/3	2008/3	増減	率
売上高	50,003	56,634	6,631	13.3%
営業利益	3,454	4,554	1,100	31.8%
営業利益率	6.9%	8.0%		

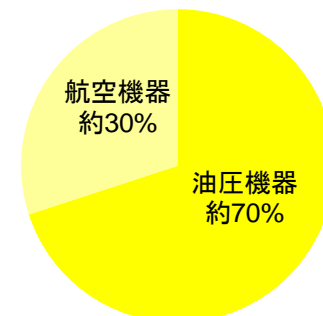
- 油圧機器は建設機械需要が拡大、増収。
- 風力発電機用駆動装置も増収。
- 航空機器は防需関連が減少したものの、民間航空機の好調により増収。
- 各事業の増収効果により増益。
- 航空機器における生産体質改善費用、クレーム等より4Q利益圧迫。

売上高

当初予想	53,000百万円
1Q時予想	53,000百万円
中間期予想	55,300百万円
3Q時予想	55,800百万円

営業利益

当初予想	3,700百万円
1Q時予想	4,000百万円
中間期予想	4,500百万円
3Q時予想	4,700百万円



売上高構成比

産業用機器事業

主要製品と顧客 (敬称略)

●自動ドア

各種建物用自動ドア: 大手ゼネコン・トステム・Michaels (米)

プラットホームドア: ゆりかもめ・東京地下鉄・天津地下鉄 (中)・ソウルメトロ (韓)

●包装機 食品充填包装機

味の素・日本ハム・大塚食品・ハウス食品・ロッテ・Mars (米)・Dole (米)・Unilever (米)

(単位:百万円)	2007/3	2008/3	増減	率
売上高	36,183	35,725	-457	-1.3%
営業利益	3,936	4,133	197	5.0%
営業利益率	10.9%	11.6%		

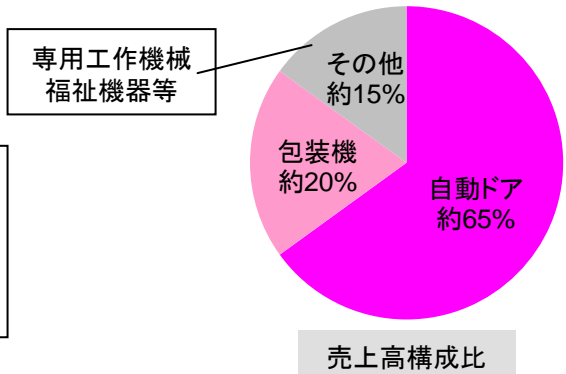
- 自動ドアは海外向けプラットホームドアの増加により増収。
- 包装機はペットフード向け輸出が好調。
- 等速ジョイント加工機は自動車業界の設備投資回復に伴い、増収。
- 海外子会社の譲渡による売上高減少約26億円。
- 自動ドア、包装機を中心とした収益性向上により増益。

売上高

当初予想	35,000百万円
1Q時予想	35,000百万円
中間期予想	34,600百万円
3Q時予想	34,700百万円

営業利益

当初予想	3,900百万円
1Q時予想	3,900百万円
中間期予想	4,100百万円
3Q時予想	4,100百万円

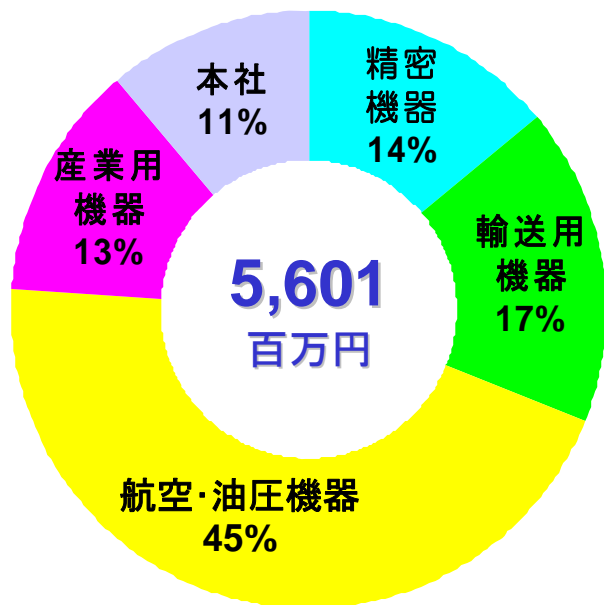


(単位:億円)	2007/3	2008/3	差異	コメント
資 産	1,632	1,633	0	
(現 預 金 等)	265	301	35	
(売 上 債 権)	472	466	-6	
売上債権回転日数	108日	98日	-10日	
(棚 卸 資 産)	180	184	3	
棚卸資産回転日数	51日	50日	-1日	
(有 形 固 定 資 産)	436	433	-2	
(投 資 有 価 証 券)	210	166	-44	保有株式の時価下落
負 債	861	808	-52	有利子負債の減、他
(有 利 子 負 債)	269	231	-38	
純 資 産	771	824	53	
(少 数 株 主 持 分)	40	50	10	

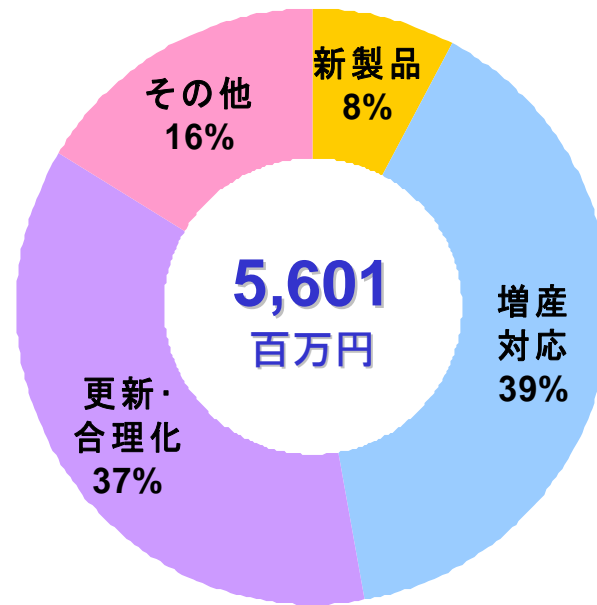
※ 自己資本比率: **44.8%** **47.4%**

(百万円)	2007/3	2008/3	増減
設備投資額	7,037	5,601	-1,436
研究開発費	4,023	4,080	57
減価償却費	4,896	5,215	319

セグメント別設備投資額



目的別設備投資額



- I. 2008年3月期連結業績概況
- II. 前中期経営計画のレビュー
- III. 新中期経営計画
“Global Challenge 2010”

主要経営指標の達成状況



	2005年3月期 <実績>	2008年3月期 <前中期計画>	2008年3月期 <実績>
売上高	1,379億円	1,550億円	1,742億円
営業利益	112億円	170億円	194億円
営業利益率	8.2%	11.0%	11.2%
当期利益	56億円	95億円	110億円
ROA	4%	8%	6.8%
ROE	11%	15%	14.7%
FCF(3カ年累計)		250億円	221億円

2008年3月期セグメント別計画・実績比較



(単位:百万円)

セグメント	項目	前中期 計画値	実績値	達成率	コメント
精密機器	売上高	37,000	32,912	89%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 07/3期におけるロボット需要の一時的減少 ■ グループ会社の整理(売上高影響約23億円)
	営業利益	6,800	4,682	69%	
輸送用機器	売上高	40,000	48,982	122%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内外鉄道需要の増 ■ 商用車の堅調 ■ 世界造船の急増
	営業利益	2,900	6,060	210%	
航空・油圧機器	売上高	41,000	56,634	138%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建機需要の拡大 ■ 民間航空機の回復
	営業利益	2,700	4,554	169%	
産業用機器	売上高	37,000	35,726	97%	<ul style="list-style-type: none"> ■ グループ会社の整理(売上高影響約29億円)
	営業利益	4,600	4,133	90%	
連結	売上高	155,000	174,254	112%	
	営業利益	17,000	19,429	114%	

- I. 2008年3月期連結業績概況
- II. 前中期経営計画のレビュー
- III. 新中期経営計画

“Global Challenge 2010”

Global Challenge 2010

～グローバル市場でさらなる飛躍へ～

グローバル成長市場での事業強化と、
全ステークホルダーを重視した企業経営により、
永続的な企業価値増大を目指す。



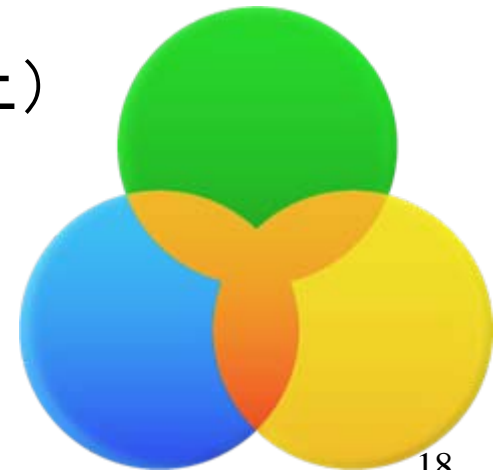
1.さらなる成長性・収益性の追求

- ▶ アジアを中心とした海外売上拡大、海外事業展開の強化
- ▶ 技術優位性の強化・確立と、次世代技術イノベーションの追求
- ▶ 事業拡充、シナジー効果を目的とした企業提携・M&Aの推進
- ▶ 少子高齢化を見据えた国内生産性の向上と海外生産の推進
- ▶ 人材力における質と量の強化



2.ROA・ROEを意識した経営の推進

- ▶ 資源の効率活用と利益ある成長を両立させた事業戦略の推進（ROAの向上）
- ▶ 成長投資、財務健全性の確保、株主還元のバランスを考慮した企業収益の適正配分（ROEの向上）



3.企業風土の革新

- ▶ プライド、夢、高い倫理観・学習意欲・CSR意識を持ち、最高の生産性・品質を実現するとともに、さらなる成長を追求する環境・風土の構築
- ▶ 省エネルギー、環境保全に寄与する製品開発と事業運営の推進



	2008年3月期 <実績>	2009年3月期 <計画>	2011年3月期 <計画>
売上高	1,742億円	1,780億円	2,100億円
営業利益	194億円	184億円	260億円
営業利益率	11.2%	10.3%	12.4%
当期利益	110億円	113億円	155億円
ROA	6.8%	6.7%	7.8%
ROE	14.7%	13.9%	15.2%

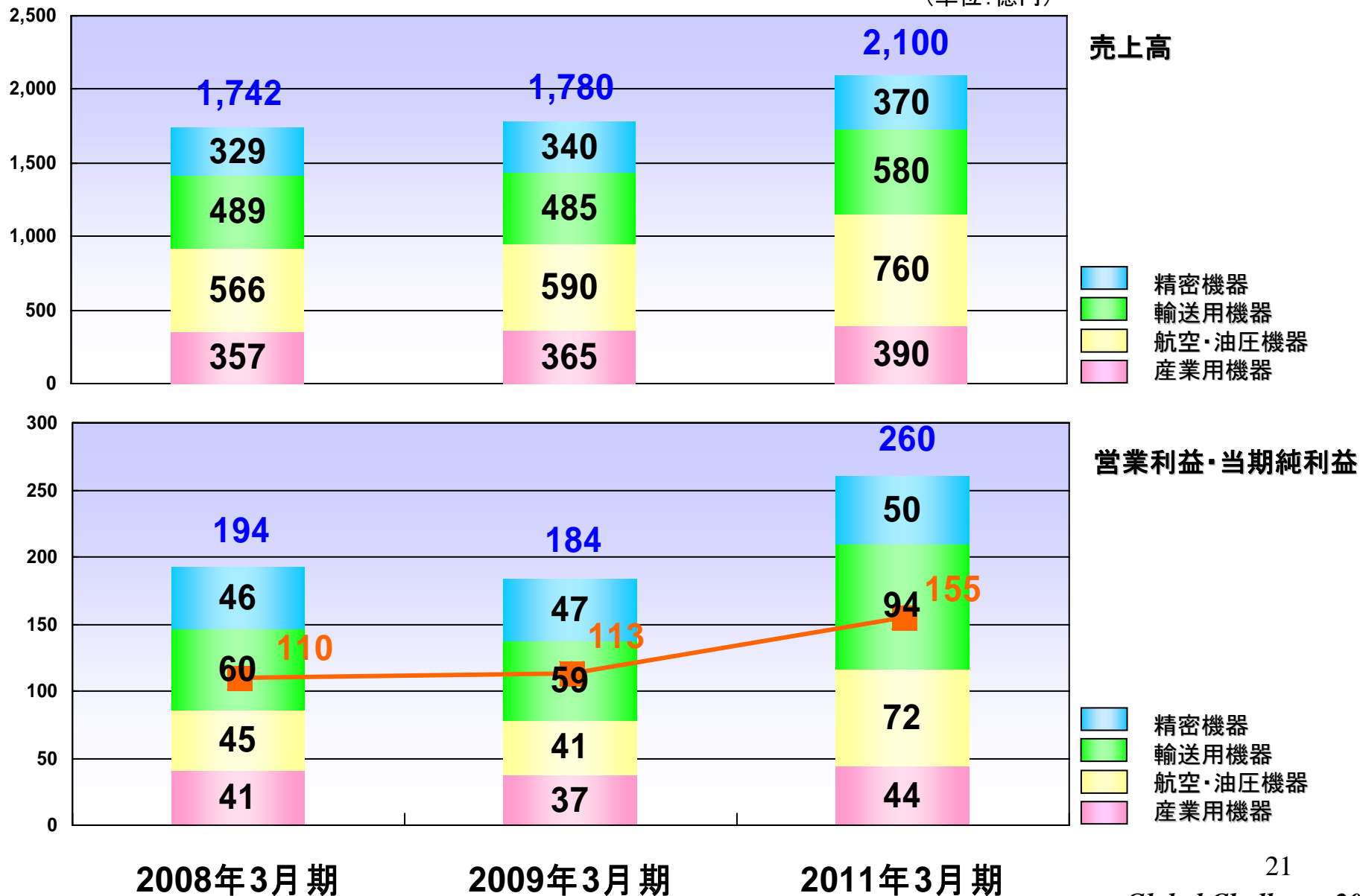
2015年3月期経営目標(長期ビジョン)の引上げ



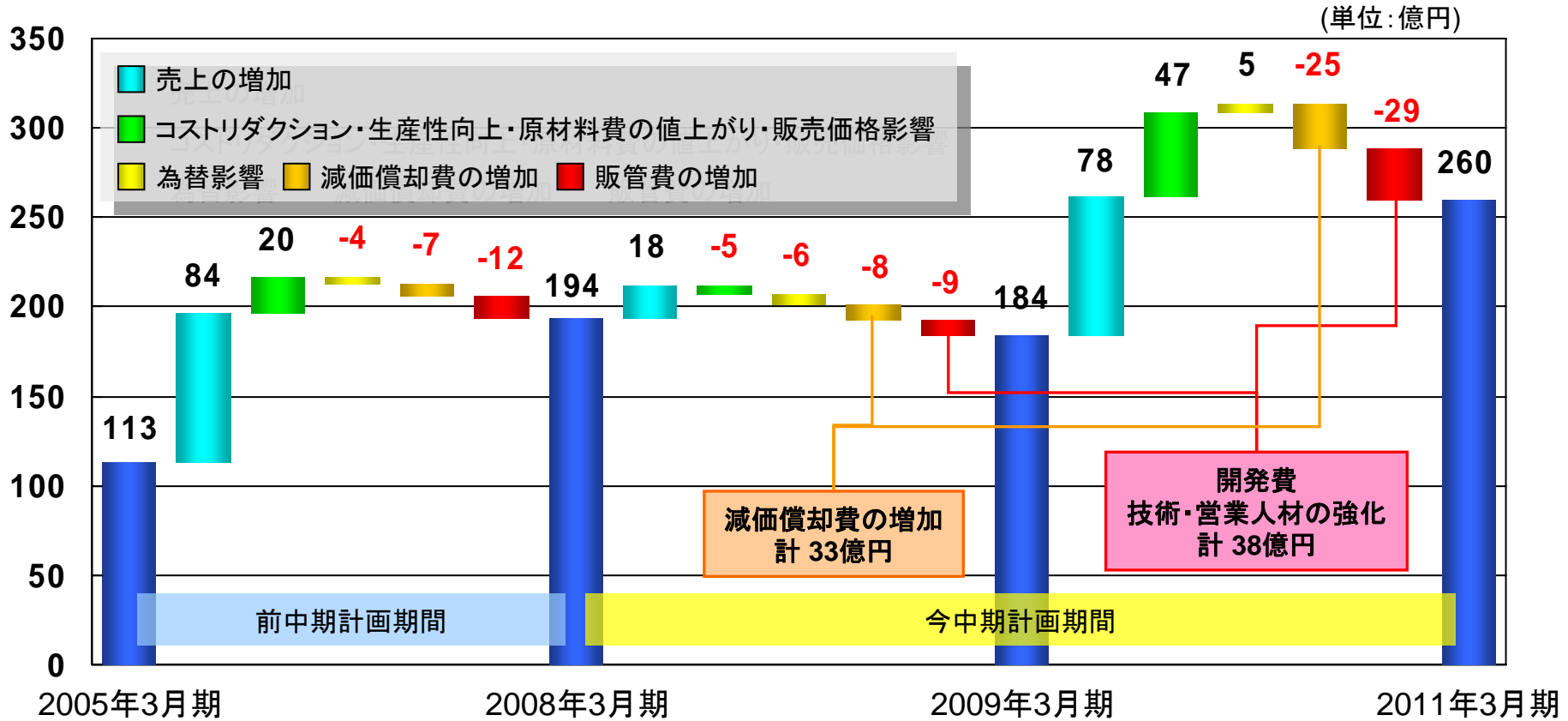
計数計画：セグメント別売上・利益



(単位: 億円)



計数計画：営業利益変動要因分析

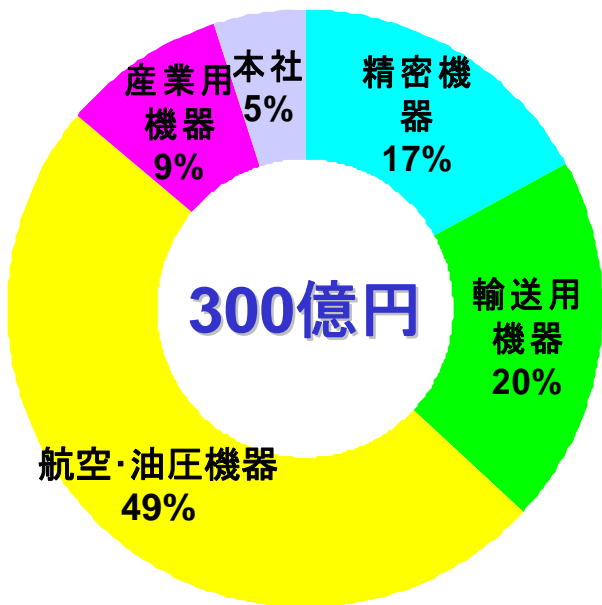


成長投資により長期ビジョン目標(営業利益360億円)達成を目指す。

設備投資額・研究開発費・減価償却費

	3カ年累計
設備投資額	300 億円
研究開発費	140 億円
減価償却費	220 億円

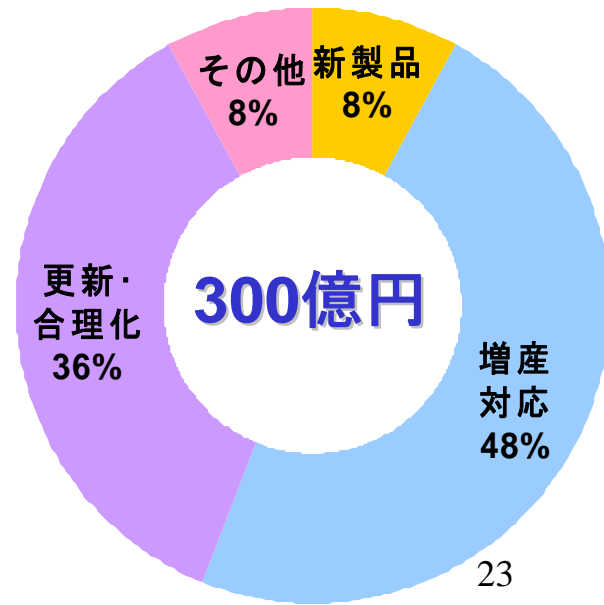
セグメント別設備投資額

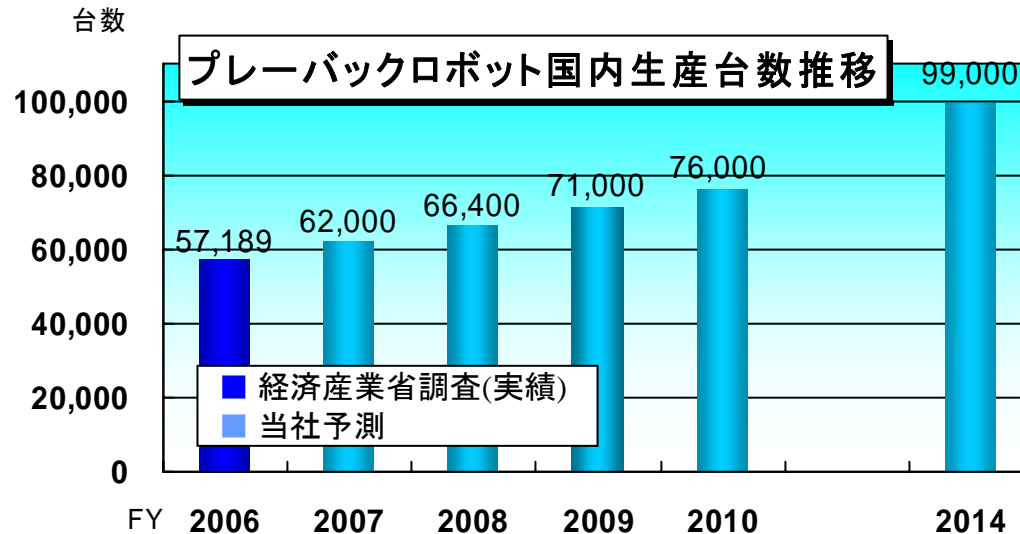


主な設備投資計画

- 精密減速機
増産用設備、自動化
- 鉄道車両用機器
新製品対応、自動化
- 商用車用機器
自動化、新製品対応
- 船用機器
工場増築、新製品対応
- 油圧機器
タイ工場新設、上海工場増築、
風力機器工場新設(垂井)
国内工場増産・自動化用設備
- 航空機器
民需専用ライン導入
- 自動ドア
新製品対応

目的別設備投資額





事業環境

- ロボット市場は成長継続も、価格圧力は厳しい。
- 工作機械は微減するが高原状態継続。
- 半導体・液晶製造装置はシクリカルながら伸長。
- クリーンエネルギー向けビジネスチャンスの拡大。

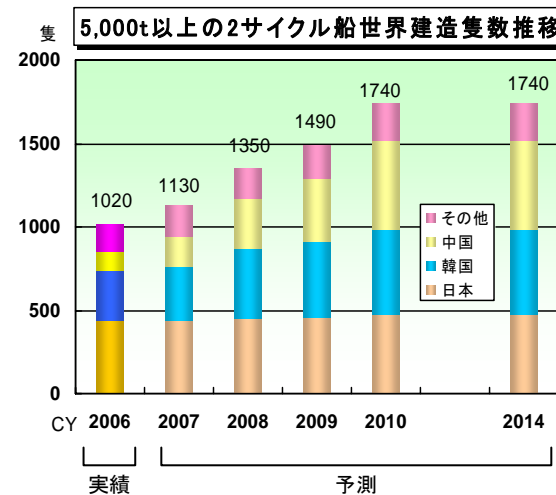
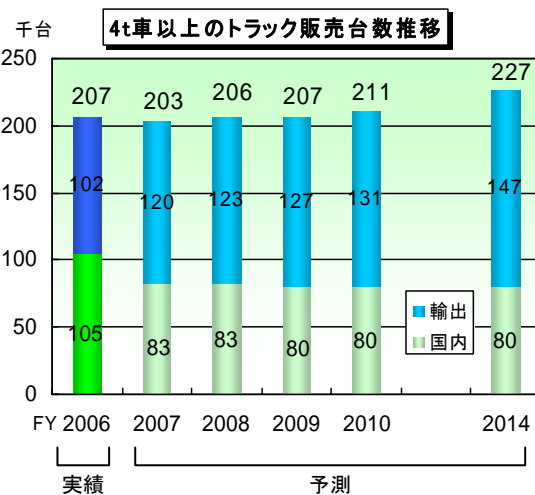
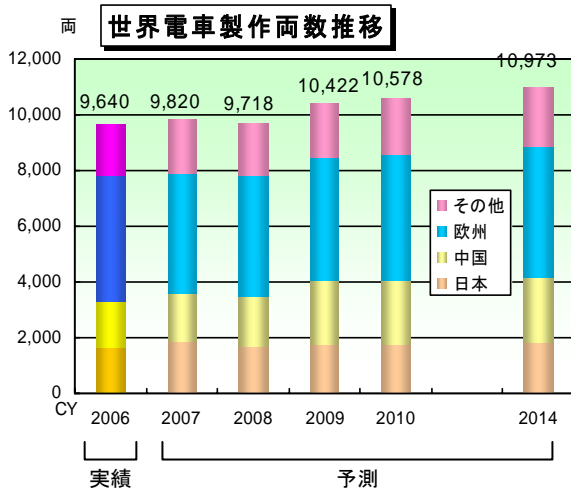
主要戦略

- 競合他社に対する品質・性能優位性の維持・向上
- 精密減速機技術をコアとした新製品の上市
(太陽追尾装置向け減速機、高精度割出盤)

セグメント別主要戦略 【輸送用機器】



図表: 当社調査



事業環境

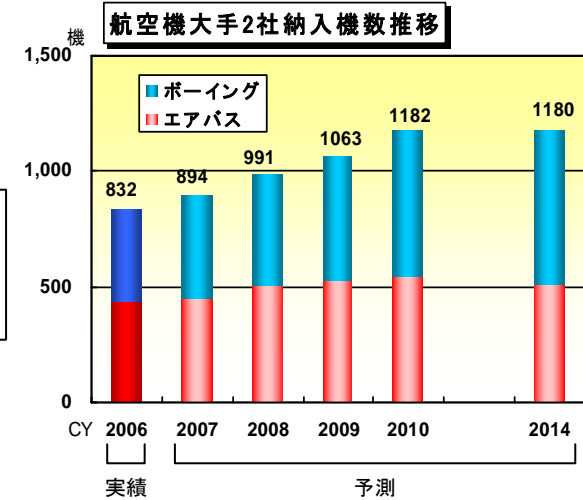
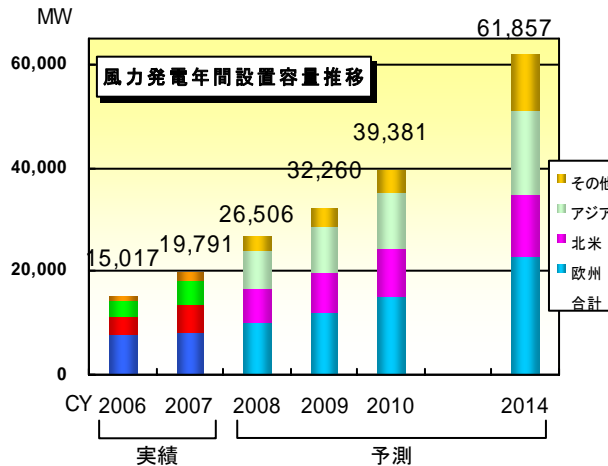
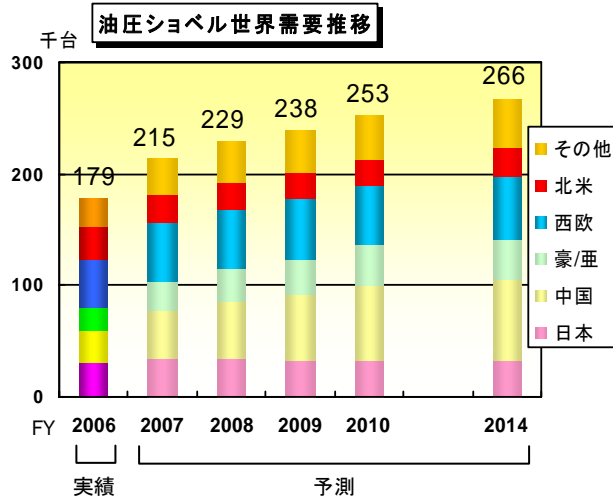
- 鉄道車両用機器
国内需要は更新中心であるが、新興国での新設、先進国でも環境意識の高まりから設備投資旺盛、世界的に需要拡大。
- 商用車用機器
国内市場成熟も完成車輸出、ノックダウン生産が拡大。
- 船用機器
新興国による船舶輸送の需要が拡大。世界の造船所もフル操業が続く見通し。

主要戦略

- 鉄道車両用機器
グローバル展開の強化
ー現地生産体制の強化による中国市場シェアアップ
ーブレーキ・ドアのフルシステム対応製品開発による輸出強化
- 商用車用機器
タイ拠点を中心としたアセアン市場の拡販
電子・電動化製品の開発・上市
- 船用機器
東アジア地域を中心とした新造船向けの拡販とサービス体制の強化と電子・電動化製品の上市

セグメント別主要戦略 【航空・油圧機器】

図表：当社調査



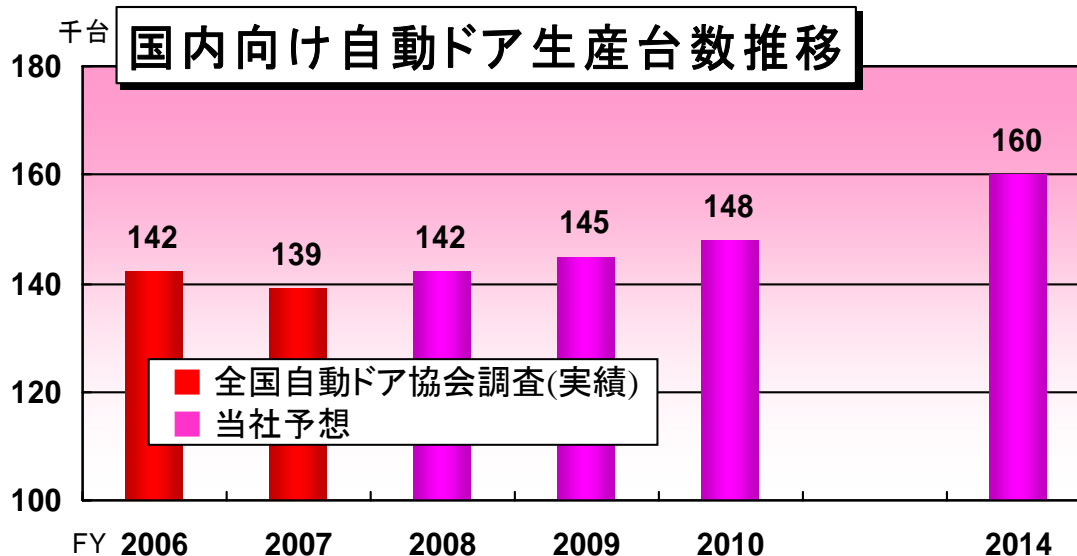
事業環境

- 油圧機器
建設機械：新興国での需要は引続き旺盛。
風力発電：高成長継続。欧州中心から北米、中国へ市場拡大。
- 航空機器
防衛予算は減少傾向、民間航空機は省エネ機体への需要が活発、補修市場も拡大の見通し。

主要戦略

- 油圧機器
建設機械用機器の生産能力増強
— 新興国市場の拡大に合わせた海外生産拠点の新設(タイ)・拡充(上海)
— 国内工場生産能力の増強、及び設備投資による生産性向上
風力発電用機器事業の拡大
- 航空機器
民需分野におけるアフターマーケット事業の拡大
開発案件の完遂と量産移行(B787向け高電圧配電装置、MRJ向けFlight Control System)

セグメント別主要戦略 【産業用機器】



事業環境

■ 自動ドア

国内:改正建築基準法の影響は脱するも建物向けの市場成長は緩やか。2011年以降、既存駅へのプラットホームドア設置本格化。

海外:北米市場は中期的に需要回復、中国市場は拡大継続。プラットホームドアは需要拡大。

■ 包装機

国内市場は更新需要中心。欧州ペットフード需要、アジアでの食品向け需要が拡大。

主要戦略

■ 自動ドア

プラットホームドアのシェア拡大のための体制強化
北米・中国の代理店網・保守体制の強化

■ 包装機

用途拡大・製品ラインナップの拡充
海外売上の強化

戦略的な成長投資、財務健全性の確保、株主還元の
バランスを考慮した企業収益の適正な配分を基本とし、
中期計画最終年度に
連結ベース配当性向30%を目指す。

